

転重軽受法門

御書全集 1000 卷 3 行目〜4 行目
編年体御書 379 卷 3 行目〜4 行目

涅槃經に転重軽受と申す法門あり、先業の重
き今生につきずして未来に地獄の苦を受くべ
きが今生にかかる重苦に値い候へば地獄の苦
みぱつときへて死に候へば人天・三乗・一乗の
益をうる事の候

語句

ねはんぎょう
涅槃經

釈尊の臨終を舞台にした大乘經典。

てんじゅうきょうじゆ
転重軽受

「重きを転じて軽く受く」と読み下す。正法を護持する功德の力によって、未来世にまで続く過去世の重罪を転じて、現世でその報いを軽く受け、消滅させること。

通解

涅槃經に転重軽受という法門がある。
宿業が重く、今のこの一生に尽きないで、未来世に地獄の苦しみを受けなければならぬところが、今のこの一生でこのような重い苦しみにあつたので、地獄の苦しみがぱつと消えて、死んだら、人・天や声聞・縁覚・菩薩の三乗、一乗の利益を得ることがあるのである。

さんじょう
三乗

声聞乗・縁覚乗・菩薩乗のこと。それぞれ声聞・縁覚・菩薩の覚りを得るための教え。ここでは、得られた声聞・縁覚・菩薩の境地。

いちじょう
一乗

一仏乗のこと。成仏への唯一の教えのこと。ここでは得られた仏の境地。